



財団法人 まちづくり市民財団



まち towns!

Vol. 20

2010年度事業報告



設立趣意書

東西の経済的、社会的融合とグローバルな活動が重視される21世紀社会の形成に向けて、地球的規模で市民・市民団体自らが考え、自ら実践する社会基盤を形成することが急務になっていきます。このことはまさに生活者・消費者を主人公とする社会システムを形成するものであります。

このような時代にあつては、行政でも特定の利益代表でもない市民が自らの手で地域の将来ビジョンを築き、行政に民間の経営マインドを注入し、市民の主導によって、先見性と夢のある計画作りを行うことが求められています。また、行政の縦割りを越えて利用者の立場にたった施策を提案し、さらに各自がその実現に向かって努力するというこの意義は極めて大きいものと思われまふ。地域社会の活力を維持する為には豊かな想像力と企業家精神、そして既存の価値観にとらわれない心は欠かせません。

以上のような考えから青年経済人として私たちは広く地域社会の将来を見通し、社会に貢献するための仕組みとして、財団法人「まちづくり市民財団」を設立いたします。

財団法人まちづくり市民財団寄附行為（抜粋）

（目的）

第3条 財団は、市民が主体的に行う地域振興、地域活性化をまちづくりとしてとらえ、まちづくりに関する研究・提案を行い、また、まちづくりの為の市民の諸活動への助成を行う等により、地域の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

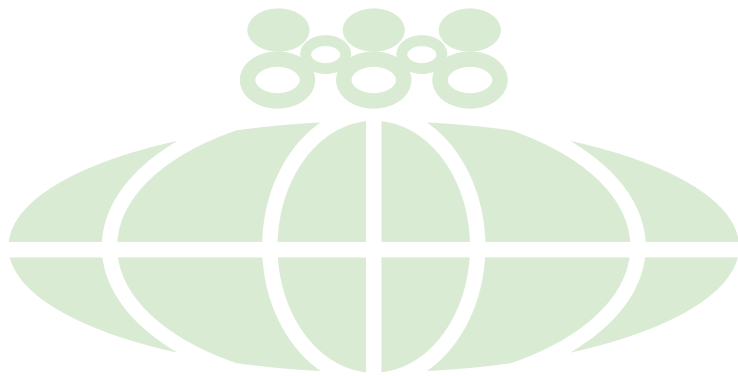
第4条 財団は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) まちづくりに関する総合的・学術的な調査研究
- (2) まちづくりに関する情報及び人材リストの収集活動
- (3) まちづくりに関する情報提供活動
- (4) まちづくりに関する研究者交流活動
- (5) まちづくりに関する研究及び事業に対する助成
- (6) その他財団の目的達成に必要な事業

目次

- 02 設立趣意書
- 02 財団法人まちづくり市民財団寄附行為（抜粋）
- 03 財団法人まちづくり市民財団とは？
- 03 理事長挨拶
- 04 2010年度「まちづくり人」応援助成金
選考委員のコメント
- 05 2010年度「まちづくり人」応援助成金
交付地・助成金一覧
- 06 2010年度「まちづくり人」応援助成金
対象事業紹介（中間報告）
- 12 2007～2009年度助成金事業一覧
- 14 共同研究事業紹介
- 15 緊急災害援助事業

財団法人 まちづくり市民財団 とは？



まちづくり市民財団は、
パートナーシップによるまちづくりを基本理念に
「市民がまちづくりを行いやすい環境づくり」と、
「それに取り組む人たちの応援」をする財団で、
日本青年会議所が、より社会への貢献を目指し
創立40周年を期して設立したものです。

地域の小さな循環を紡ぐ
〜これからのまちづくり市民財団の役割〜



財団法人

まちづくり市民財団

理事長 米谷 啓和
こめたに ひろかず

これまで20年間、まちづくり市民財団は助成事業を中心に広くまちづくり全般にわたって活動してきました。そして阪神淡路大震災やそれを受けたNPO法の成立も手伝って、NPOや市民団体が自立して活動できる日本社会の形成に向かう一助をなしてきました。

それは同時に、行政や企業をはじめ多くの助成団体の誕生をうながし、ひいては先駆者としての当財団の助成のあり方自体を見つめ直すことにもつながっています。

また超低金利時代が続く中、公益法人制度の改革も進められ、財団の限られた財源をどう効果的に生かしていくかを見定める転機も迎えています。

〈未来世代へと手渡していける持続可能な地域をどう創っていくか〉：わたしはこのことがいまのわたしたち責任世代の最大の課題と考えています。

そのためには、地球の大気・水・エネルギー・堆積と風化といった大きな循環を基盤として、自治・環境・食・交通・文化などふだんの暮らしの地域の小さな循環がスムーズに回っていることが必要です。

しかし現実には、18世紀の産業革命を端緒に、第二次世界大戦後の戦後統治や高度経済成長をつうじて、地域や家族共同体の変容、化石燃料の濫費、物流のグローバル化、車優先のインフラづくり、伝統文化の喪失が急速にすすんできました。

人と人とのつながり、人と地域とのつながり、人と自然とのつながり、歴史や伝統とのつながり、未来とのつながり…ほころびつつあるこうした身の回りの小さな循環をひとつひとつ紡ぎ直していくことこそが、わたしたちが真っ先に取り組んでいくべき課題です。

具体的には、

- ・ 家族をつなぐ
 - ・ 地域の共同体をつなぐ
 - ・ 自然の循環をつなぐ
 - ・ 食の循環をつなぐ
 - ・ 歴史と自分をつなぐ
 - ・ 地域の伝統文化をつなぐ
 - ・ 再生可能なエネルギーで暮らす
 - ・ 化石燃料を使わずに移動する
- といった活動のテーマが浮かび上がります。

地域の小さな循環を紡ぐ…このことを新たに財団のビジョンに掲げ、実績のある助成金事業をひとつの柱として、新たな政策研究・研究交流事業に取り組むことで、地域に学び、地域を支え、そして地域を変えていく「小さな環」をもに紡いでいきたいと願っています。

2010年度「まちづくり人」 応援助成金のご報告

2010年度「まちづくり人」 応援助成金の応募に、日本各地より174件の応募を頂きまして、誠にありがとうございました。

【本年度の応募について】

ご応募を頂きました「まちづくり人」 応援助成金「申請書に記載されている内容には、今年度も日本各地で市民が中心となって取組まれているまちづくり活動や、これから取組み始める活動への熱意が具体的に記載されています。まちづくり活動を地域に根付かせようとの努力や、多くの市民の協力を募り地域の連携や活性化を図る取組が審査委員の先生方にも強く伝わる応募が多く寄せられていました。

まちづくり活動もNPO団体として組織化して取組む方も増加し、市民参加型の活動から市民主体の活動へと成長し、取組む事業や運動が生活に密着した身近な活動として日本各地で「まちづくり」が普及してきていると感じられました。

【選考過程】

助成先選定にあたりましては、申請書を頂きました書類や参考資料、申請書に記載されているホームページ等で活動内容を確認させて頂いた後に、まちづくり市民財団の担当者により電話でヒヤリング調査を行ない、申請者の方に直接お話をさせて頂き、書面だけでは記載できない活動内容や活動を始めた経緯や背景などを詳しくお聞きし、申請内容や活動等を正確に把握した後に、財団委員により選考委員会において詳細な報告を行い選考委員による選考委員会を開催して助成先を認定しています。本年度の審査委員会では、地域経済が疲弊している現状を鑑みて、より活動を活性化すべき地方を抱える市民活動の問題点や、今後の活動や発展を期待する内容を重点的に助成対象先として協議されました。

174件の応募を頂いた申請内容は、全てが優秀を付け難い申請内容であることは例年と同様でしたが、ご応募された地域の抱える問題に対しての緊急性や必要性、今後の事業や運動の継続性や発展性を中心として協議されて助成先を認定されています。

【選考後の助成先への訪問】

本年度は「まちづくり人」 応援助成金に応募を頂きました174件の中より、「まちづくり人」として12件を認定させて頂き助成を実行させて頂きました。

選考委員会で内定した助成先には、まちづくり財団の役員が助成先に訪れて申請先の方々と直接お話をさせて頂き、選考委員会で議論された内容と共に助成された経緯や先生方からお話を頂きました活動に対するアドバイス等をお伝えいたしました。

【終わりに】

行政サービスを受けるだけでは無く地域活性化や市民の連携を活性化し、能動的に市民や地域が必要とする活動や運動を行ないたい市民が中心となって、市民自らが活動できる環境を創出する目的で、「まちづくり人」 応援助成金として、まちづくり市民財団では助成事業に取り組んでいます。

団体や組織がまちづくり人 応援助成申請への応募時点では無くても「まちづくりを志す」活動を行いたい人を応援する目的で「まちづくり人」として「志す人」を重視して助成事業に取組んでいます。本年度認定された12件の中間報告や認定者・団体のホームページ等で活動をご覧頂けば、今後の皆様のまちづくり活動の一助にもなると考えられますので是非ご覧下さい。

「まちづくり人」 応援助成事業

担当理事 美和健一郎

「まちづくり人」 応援助成金 選考委員のコメント



「まちづくり人」 応援助成事業選考委員

まちづくり市民財団理事

檜根 貢

わが国の社会が縮む。国内の人口が減少しそれに伴う社会の機能が切り換わる。そんな時代になりました。私たちはそれぞれの地域社会で個別具体的な問題に向き合っています。始まりは小学校の統廃合でした。生活している場所にこれまでの学校がなくなりました。このことは学校を失っただけではなく、放課後の子どもを預かってくれる場所を失うことでした。共働きや家族みんなで農業を営んでいる親にとっては、下校時から自分が家に帰る時間までの子どもの保育ができない。そんな不安を覚えることになったようです。続けて、その地域の保育所も廃園になりました。子どもたちが少なくなったので、行政サービスの見直しの結果でした。小学校と保育所を失ったその地域の人たちは一挙に2つの場所を失うことになったのです。

それを見かねた女性が立ち上がります。廃止保育所の所長を最後に退職したこの人は、保育所と

その用地を市にかけあって借り上げ、「あそびの学校」を発足させました。まことに、勇断でした。私塾のような学童保育はファミコン遊びではないあそびをさせる。子どもらしい生活の復活を目指すものでした。いまは3年目。この学校の経営は厳しいのです。利用する子どもは多くはありません。願いや思いだけでは学校を維持するのは容易ではないのです。最初は週6日で始めたのですが、そのうちに週2日となり、最近では週1回の開校となりました。鍵がかかっている学校となつてしまいました。

日本列島の本州北端に近い地域で起きていることです。縮小社会、少子高齢社会の一端がここにありませぬ。行政はその地域社会とは別個の口ジックから公的サービスの供給から撤退するのです。その地域社会がそれをどのように受け止め、どのように対応していくのか。それが問われています。この事例は市民のネットワーク

クに活路を見出そうとしています。これに限らず市民の目線の高さにおいて問題解決を目指す課題が増えていきます。

私たち市民は、地域社会の課題に向き合い現場でもまれながら、具体的な答えを出すようになりました。行政の対応を待つのではなく、地域社会や市民のネットワークで答えを出す。そんな進め方が広がっています。

このような時代状況において、まちづくり市民財団の役割は決して小さくありません。助成する金額は多くはありませんが、これまで地域やグループを応援してきました。住民・市民の主体的試みは大事なことだと勇気づけてきました。助成だけの手段ですが、青年会議所メンバー等による地道な事前審査で、的確な対象先を決めることでできていると自負しております。小さな試みが続いていることで大きな社会変化の要請に寄与したい。これがこの財団の願いだと理解しています。

応援助成金交付地

応募対象

- A : 小さな循環をつなぐ仕組み創り
- B 1 : 環境活動：環境保全やエコ運動を推進する、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 2 : 啓蒙活動：NPOや組織づくりを通じて、まちづくり活動を提唱・実践する人を応援します。
- B 3 : 交流活動：世代間交流を活発にする活動や運動等を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 4 : 活性化活動：地域の商工業を活性化する活動を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 5 : 文化活動：地域の歴史や文化、芸術活動の推進を通じてまちづくり活動をする人を応援します。
- B 6 : 福祉活動：地域福祉の増進を図る活動を通じてまちづくり活動をする人を応援します。



2010年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表		合計助成金額 5,400,000円		
団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目
1 特定非営利活動法人 北新潟経済人会議	みんなでつくる／はじめてでもつくれる政策立案研修公開講座	350,000	新潟県	B 2
2 特定非営利活動法人 あいち菜の花活用推進協議会	菜の花エコプロジェクトで広げる資源の有効活用～授産施設がつなげる環境と地域社会～	400,000	愛知県	A
3 特定非営利活動法人 まちづくりプロジェクト	柏原ええとこ再発見「My 道標」づくり＝健康・アウトドアシティかしわらをめざして＝	500,000	大阪府	A
4 ちぐさアーカイヴプロジェクト	「ちぐさアーカイヴ」	500,000	神奈川県	B 5
5 特定非営利活動法人 FM伊都	主要テーマ：ワイワイキッズ・町おこしデ〜イ！ サブテーマ：住民ディレクター方式によるまちづくり！	400,000	福岡県	B 4
6 とっとり議場シネマ実行委員会、Casoca（カソカ）	若者の協働による芸術文化を活かした地域再生事業	500,000	鳥取県	B 5
7 特定非営利活動法人 いちごいち笑 ～明日香の家族～	地域施設のバリアフリーを体験するワークショップ	500,000	鹿児島県	A
8 京都子育てネットワーク	子育てサークルコンサルテーション事業	500,000	京都府	A
9 わたしたちの夏委員会	子どもに伝えるものづくりフェア	350,000	岡山県	B 5
10 山の都ハニープロジェクト実行委員会	山の都ハニープロジェクト	500,000	山梨県	B 1
11 特定非営利活動法人 棚田 LOVER's	棚田保全、有機農業推進のために都市と農村をつなぎ、農や食に関心のある人を応援するまちづくり農楽カフェ事業	500,000	兵庫県	B 2
12 特定非営利活動法人 鈴鹿循環共生パーティー	鈴鹿「まちはたけ」公園へ行こう！ はたけづくりは街づくり	400,000	三重県	A

1 特定非営利活動法人
北新潟経済人会議

みんなでつくる／はじめてでもつくれる
政策立案研修公開講座

事業実施期間
2010年4月10日～8月28日(毎月1回全5回)
事業実施場所
新潟医療福祉大学
共催、後援、協力団体
共催 新潟医療福祉大学
後援 新潟市北区役所、新潟市北区自治協議会、北区まちづくり協議会
動員対象者人数
—本当に必要な政策を市民の手で—
政策づくりを市民の「オープンソース」とし、共有学習するために、市民活動に「政策形成・対策づくり」のノウハウと必要な情報・環境を公開し、市民の間に政策立案のスキルを蓄積することを目的としています。本講座は、「政策作成マニュアル」を学習することによって、市民の身近な関心領域に関わる政策のつくり方から、その実現までを体系的にわかりやすく解説いたします。
全5回 合計153名

- 第1回 基調講演「政策作成マニュアル」概要説明**
日時：2010年4月10日(土)、13:00～17:00
会場：新潟医療福祉大学
講師：蓮田 功氏(「政策作成マニュアル」講師)
- 第2回 政策を立案するために(準備編)**
日時：2010年5月8日(土)、13:00～17:00
会場：新潟医療福祉大学
- プログラム
1. 講義 「分権型社会と市民型政策」
〈政策・制度のネットワーク〉を整備する
講師：土山希美枝(龍谷大学准教授)

2. 講義 「自治体政策・運営の実際」
講師：井浦正弘(新潟市財務部長、前北区長)
3. ワークショップ(全体)
「新潟市・北区のまちづくりについて
提案するテーマ(課題)を考えよう」
ファシリテーター：直田春夫(NPO政策研究所 所理事長)
- 第3回 政策をつくってみる(その1)**
日時：2010年6月12日(土)、13:00～17:00
会場：新潟医療福祉大学(G410教室)
- プログラム
1. 講義 「市民政策の可能性と政策技術」
講師：直田春夫(NPO政策研究所)
2. ワークショップ
「わがまちの政策課題に取り組む」
ファシリテーター：NPO政策研究所(直田、荒川)
- 第4回 政策をつくってみる(その2)**
日時：2010年7月24日(土)、11:00～17:00
会場：新潟医療福祉大学(G410教室)
- プログラム
1. ワークショップ
「わがまちの政策課題に取り組む(承前)」
ファシリテーター：NPO政策研究所(直田、荒川)
2. 発表と意見交換
ファシリテーター：NPO政策研究所(直田、荒川)
コメンテーター：相川康子(神戸大学准教授、NPO政策研究所理事)
3. ミニ講演「地域情報を活用する」
講師：相川康子(神戸大学准教授、NPO政策研究所理事)
- 第5回 政策立案と自治 —市民の自立のために**
日時：2010年8月28日(土)、13:00～17:00

- 会場：新潟医療福祉大学(G410教室)
- プログラム
1. 講義「市民自治を進めるために—市民の政策立案を通して」
講師：中川幾郎(帝塚山大学大学院法政策研究科教授)
2. ワークショップ「公共施策を協働の視点から点検する」
ファシリテーター：NPO政策研究所(直田、荒川)
3. まとめ
4. おわりに(北新潟経済人会議 理事長 皆川 義雄)

事業実施による効果
まちづくりと地域の課題解決を考える多くの市民が参加した。市民に必要な政策形成対策づくりと政策立案のノウハウを勉強できた。政策というものが少しは理解できたので、今後、市民・地域から政策提案していく時に役に立つと思う。

反省点
一回の受講時間が約4時間であり、かなり内容の深い講座で、全5回はキツかったが、私達の代弁者であるもっと多くの市議会議員に参加してほしい。

今後の課題
このたびの政策立案研修公開講座で、延べ153名の参加者間の交流が生まれました。今後のまちづくりにおいて、この交流の和をベースに、更に大きな輪として拡げていきたいと思っています。



2 特定非営利活動法人
あいち菜の花活用推進協議会

菜の花エコプロジェクトで広げる
資源の有効活用
～授産施設がつなげる環境と地域社会～

事業実施期間
2010年5月1日～2011年3月31日
事業実施場所
名古屋市中区川つゆはし作業所
共催、後援、協力団体
つゆはし作業所(共催)
NPO法人名古屋南部地域再生センター
動員対象者人数
つゆはし作業所の秋の感謝祭のイベント時において同作業所が推進する廃油回収システムの説明と、菜の花栽培を通して菜の花油の食物自給率の低さを訴え、地産地消がエコ活動に連動することを啓発しました。参加者には菜の花栽培のために種まき体験を行い地域緑化を進めようと呼びかけました。
ブース見学者数200名
体験者数 30名

油回収とエコ石鹸やバイオディーゼルの生産とどのように密接に関係しているかを楽しく学ぶために活動を進めています。

いて廃油回収啓発のための菜の花エコチャレンジを開催します。

あけて新年には愛知県内の住民を対象につゆはし作業所の視察会を行い、石鹸作りの見学やエコ商品の作成体験をします。

- 各地において授産施設と協働開催
また、廃油を回収するだけではなく、搾油機を利用して菜の花油の搾油デモンストレーションを行いました。
これからは、12月に開催されるイベントに向けて作業所が如何にエコに着目しながら地域貢献をしているか啓発用のパンフレットを菜の花エコプロジェクトと協働で作ります。

○食とエネルギーの地産地消！
菜の花エコプロジェクトが進める耕作放棄地の有効利用と菜の花油の生産(全国で0.2%しか自給率がない)、それを地域で消費する地産地消の活動が廃

11月3日には作業所で通所者が菜種まき体験。20日には名古屋市港区にお



3 特定非営利活動法人
まちづくりプロジェクト

柏原ええとこ再発見「My 道標」づくり ＝健康・アウトドアシティかしわらをめざして＝

事業実施期間

2010年4月1日～2011年3月31日

事業実施場所

大阪府柏原市

共催、後援、協力団体

柏原市、大阪教育大学、関西福祉科学大学、NPO

柏原ふる里づくりの会

柏原の郷土史を語る会、EMフレンズ、など

動員対象者人数

まちプロ20名、協力団体25名

竜田道ウォーキング130名、かしわら水仙郷拡大作

戦20名など

約200名

「柏原ええとこ再発見」に向け、まちづくり道標整備が推進

柏原市は、自然環境の宝庫であり数多くの歴史的遺産があり、「郷土史を語る会」等の市民団体が活動しているが、これらを案内する「道標」が地域内に殆ど整備されていないのが現状である。そこでこれまでの縦割り行政が作る防災・観光など道標ではなく、まちに伝わる歴史・伝統・文化を掘り起こし、わがまちへの愛着や誇りや想いをメッセージとして発信する市民による「柏原資産発掘MY道標」整備推進をNPO法人まちづくりプロジェクト（まちプロ）が企画し、今年度のまちづくり市民財団助成事業に提案し採択された。

具体的には、「MY道標」として、まち歩き探索を通じて発掘した柏原の資産を市民の思いを

伝える一言メッセージを道標に記載すると共に、道標製作そのものも含め市民参画意識を高める。さらに道標には、柏原の山の間伐材等を活用や、道標には花木や歴史上のものなどをロゴサイン化し、それを辿れば目的地に到着できる、また、山中で道に迷っても居場所がわかるNコードと地図で安心して自然探索が楽しめ、ウォーキングコースとなるなどの工夫も凝らし市民の健康促進にもつなげる。

これにより、自分たちのまちの歴史・伝統・文化を発掘するプロセスを重視し、愛着と誇りを持ってもらい柏原の地域活性化と真の市民社会を創る運動に結実させたい。

（今年の具体的な活動内容）

・「まちづくり道標ガイドライン」作成：道標作成に当たっての基本となるガイドラインをまちプロと柏原市との連絡会議で作成（2010.4.14）

・「柏原かしわら水仙郷」道標整備（2010.9.12）：市民主体の「柏原の新名所」として高尾山創造の森の道標整備のための、企画・調査・製作・実施を本年6月から行い、「NPOふる里づくりの会」の協力も得て、柏原の地元の山の木材を利用し、ガイドライン



の試作第1号として道標づくりを行った。

・「竜田道」道標整備：奈良平城京から大阪難波宮への歴史街道の、再発見を行う「竜田道ウォーク（2010.10.3）：柏原の郷土史を語る会と共催」に向けて、道標の調査整備を8月下旬から行い、ウォーク前に整備を行った。なお、竜田道ウォークには当日130名の参加で、小雨の中を実施し、成功裏に終わった。

今年度のまちプロの事業展開の中で、さらに柏原における道標整備を行って行く予定です。

NPO法人まちプロホームページ、ブログ、メールアドレス

<http://www.machipro.org>

<http://blog.zaqa.ne.jp/machipro>

jimu@machipro.org



水仙郷道標作成の経緯

4 ちぐさアーカイヴプロジェクト

「ちぐさアーカイヴ」

事業実施期間

2010年10月8日（金）～10月17日（日）10日間（Jazzプロムナード期間を含む）11：00～19：00

事業実施場所

野毛Hana＊Hana

創造空間のげ

共催、後援、協力団体

主催：ちぐさアーカイヴプロジェクト

共催：野毛地区街づくり会、ちぐさ会、横浜市マザーポートエリア活性化推進事業認定事業

助成：財団法人まちづくり市民財団

協賛：キーコーヒー株式会社

協力：横浜JAZZ協会、横浜JAZZプロムナード実行委員会、野毛飲食業協同組合、横浜にぎわい座、横浜コミュニティデザインラボ、NPO法人都市資源開発センター ほか

後援：横浜市、神奈川新聞、tvk、株式会社タウン

ニュース社

動員対象者人数

動員数：総計2573人

内訳：1621人（野毛Hana＊Hana）+952人（創造空間のげ）

「ちぐさ」は、73年間という長い歴史を持ちながらも2007年に惜しまれつつ閉店いたしました。オーナーの吉田衛（ヨシダマモル）氏を中心に多くの若者がこの場で、Jazzを通して成長し、「Jazz喫茶」という固有の文化を育んできました。その記憶が詰まった貴重な5000枚を超えるレコードや写真、書簡、家具類な

どが、遺されました。この貴重な資料を野毛地区街づくり会が正式に寄贈され、故人の遺志を引き継ぐために、活用を推進することになりました。今回の事業は、当時のちぐさを知るJazz関係者や野毛地区住民やジャズパー店主が集まって、「ちぐさ」を継いでいくために始まったプロジェクトです。

今回、当時の店舗を実寸大で再現を試みました。アーティストや学生を含めて若手の人材が、日夜費やして設営しました。店舗の建築図面のない状態から当時の写真、かつてを知る人々の証言を通して、できるだけ当時の様子に近づけていきました。

この店舗には、当時のものが活用されました。外部（窓枠、扉、看板ほか）、内部（家具、カウンター、音響機器、照明器具、写真、レコード、灰皿などの小物など）に収められた品々は清掃され、当時のままのレイアウトで展示しました。なお、この店舗は組み立て式になっており、将来的に移築も可能な状態にしております。

また、トークイベントとして「ちぐさ」に関わりのあったミュージシャンや文化人を招聘し、横浜のJazz/音楽活動の発展に繋がったのかを考証しました。また、当時のスタッフがブレンド・コーヒーをサイフォンでサービ



し、修繕した音響機器によってレコードを流しました。

本プログラムを通して「ちぐさ」という地域資源を再認識し、地域にある有効な財産をまちの活性化に活用する意義が明確になったと思います。また、Jazzプロムナードに代表されるジャズフェスティバルと連携することで、かつてちぐさに通いつめたファンの方々だけではなく、広く音楽好きにもアピールすることができました。今回、「ちぐさ」という存在を広く一般の方々に知っていただき、継承していくための礎となる数多くの方々にご来場いただきました。



5 特定非営利活動法人 FM伊都

主要テーマ:ワイワイキッズ・町おこしデェ〜イ! サブテーマ:住民ディレクター方式によるまちづくり!



事業実施期間

申請計画：2010年6月1日～2011年3月31日

受託期間：2010年9月28日～2011年3月31日

事業実施場所

福岡県糸島市周辺エリア

共催、後援、協力団体

後援：糸島市教育委員会

支援：(株)重富印刷、自警団糸島ガード、いとしまひらき、糸島ふるさとガイド

協力：SURFER GIRL実行委員(糸島) / NAPエコー / THエアロビックキッズ / 糸島観にマラソン実行委員会関係者等

動員対象者人数

月日	内容	協力・関係団体等	事業実施場所	取材スタッフ			取材先メンバー	イベント参加者
				大人	子ども	合計		
10月23日	愈々スタート!	発足式&スタッフ会議	中村宅&スタジオ	7	1	8	0	0
10月30日	男性コーラス遂に出現!	NAPエコー	糸島市・前原公民館	4	1	5	14	300
	未来のダンサーを目指して!	THエアロビックキッズ					21	
10月31日	玄界灘の波に挑む!	SURFER GIRL	糸島市・芥屋海岸	3	3	6	7	600
11月13日	自然を堪能し歴史に学ぶ!	糸島ふるさとガイド	糸島市・雷山周辺	3	1	4	2	0
合計				17	6	23	44	900

子ども達とシニアによる「住民ディレクター方式」での撮影取材を実施し、映像によるインターネット放送で、わがふるりの自慢(自然・歴史・文化と人々を宣揚)を世界に発信する活動です。

①愈々スタート

手探り状態の中、テーマをどうするか?取材先は?皆でワイワイガヤガヤと論議。

②男性コーラスが糸島に出現!

皆の熱心なシニア男性コーラスメンバーの熱心できれいなハーモニーにビックリ!

③未来のダンサーを目指して!

幼稚園児~中学生までのエアロビックダンスへの突撃取材でした。

④玄界灘の波に挑む!

玄界灘の波に挑み続けるサーファーの姿を追い、未来への夢を熱く語って。

⑤自然と歴史探訪!

紅葉真っ盛りの由緒ある雷山千如寺と雷神社をボランティアガイドの方と探索。

スタッフ不足に悩みながらも何とかスタート。取材に参加したスタッフから「楽しかった〜。」との声や取材先の方々から感謝の声に励まされながら、少しでも地域で頑張っている方々の支援ができ、且つ地域の活性化へ運動できればいいなあ〜と思いつつ頑張っています。

今回取材予定は、市民財団様分：10本。

他団体支援分が、13本予定で、その遂行に気を緩めずに、且つ大いに楽しみながら日々を過ごしています。



6 とっとり議場シネマ実行委員会

若者の協働による芸術文化を活かした地域再生事業

事業実施期間

とっとり議場シネマ:

2011年3月12日(土)~13日(日)

全国アートNPOフォーラムin鳥取:

2011年3月18日(金)~20日(日)

事業実施場所

鳥取県鳥取市

共催、後援、協力団体

鳥取県、鳥取市、NPO法人アートNPOリンク、NPO法人鳥の劇場、NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会など

動員対象者人数

とっとり議場シネマ:200名

アートNPOフォーラムin鳥取:120名

鳥取県鳥取市における芸術文化を活かした地域再生の取り組みとして2011年3月にとっとり議場シネマと全国アートNPOフォーラムin鳥取を開催する。現在、両イベントとも実行委員会を組織して企画を進めている。

2004年に鳥取市との市町村合併により不要となった鳥取市鹿野町の旧議場を映画館として再生させようとする取り組みである「とっとり議場シネマ」は今年度で第4回目の開催である。これまでに市町村合併によって発生した空き空間を活用した事例として新聞各紙に数多く取り上げられたり、地方自治体が

ら問い合わせがあるなど全国から注目を集めている。今回の上映会では文化庁芸術選奨新人賞を受賞した西川美和監督の最新作「ディア・ドクター」と国内外の映画祭で多くの賞を受賞している内田けんじ監督の「アフタースクール」を上映する予定である。映画の上映のみならず、町議会議員の控室であった部屋ではカフェを運営し、ゆったり鹿野のまちなみを眺めながら市民が交流できる場を構築する。

「全国アートNPOフォーラム」は、芸術文化という共通項のもと、芸術文化を実践する団体のみならず、まちづくりや環境、教育、社会福祉といったさまざまな領域で創造的な活動に取り組む全国のNPOや民間企業等が集い、討論する場を設けるという趣旨のものであり、NPO法人アートNPOリンクが主導となってこれまで京都府舞鶴市や沖縄市、大分県別府市などで開催されている。

「全国アートNPOフォーラムin鳥取」は、1日目には鳥取市の中心市街地を巡る「鳥取まちなかさば」とレクチャーを予定している。

2日目には、鳥取市の中心市街地をメイン会場としたアートNPOやアーティストらによ

るワークショップを開催する。具体的には映像制作のワークショップや建築のワークショップ、参加者それぞれに記憶を持ち寄って巨大な地図をつくるワークショップなどを予定している。

2日目はさらにこれらの取り組みなども踏まえて、市民に創造的な喜びを感じてもらふこと、まちの魅力や資源を再発見し、まちに出会い直すこと、さらに、地域の未来やまちの魅力などをテーマに議論する予定である。

3日目には鳥取市鹿野町を会場としてアートNPOに関するディスカッションを予定しているが、実行委員会は主に1日目と2日目を担当する。

2つの事業を通じて、市民が自らまちで楽しく暮らしていくために何が出来るかを考えるとともに、鳥取において芸術文化を核とした創造的な取り組みをさらに展開していくことや既存の創造活動をより進化させることを目指していきたい。

7 特定非営利活動法人

いちごいち笑 ～明日香の家族～

地域施設のバリアフリーを体験するワークショップ

事業実施期間

2010年6月1日～2011年3月31日

事業実施場所

かごしま県民交流センター ほか

共催、後援、協力団体

特定非営利活動法人 日吉いこの会

特定非営利活動法人 ニューツーリズムネットワークかごしま

日置篤姫隊（地域復興・任意団体）

鹿児島県福祉輸送業協会（予定）

鹿児島県旅行業協会（予定）

動員対象者人数

想定される参加人数

・学生（福祉関係）

→1回辺り 15名～30名程度を予定

・社会人（30代～60代の健康者）

→1回辺り 30名程度を予定

・高齢者→1回辺り20名程度を予定

・障がい者→1回辺り 5名～10名程度を予定

バリアフリー体験講座・実施途中経過

鹿児島市のバリアフリーWebを作る際の中心メンバーとして活動した「中村真澄氏」を講師として最終に決定し、話を詰めて「バリアフリー体験講座」の日程を下記の様に決める。

当初は、1日の講座＋ワークショップにするつもりであったが、講師の中村氏との協議と、施設側の空き状況から連続2日間の講座＋ワークショップを行う事になった。

バリアフリー体験講座

〈第1回〉（座学＋実地体験）

日程：2010年12月25日（土）10:00～17:00

場所：かごしま県民交流センター2階介護実習室

内容：1. 事前ワークショップ

2. 館内下調べ、検討・予測

〈昼食〉

3. バリアフリー施設体験

4. 館内バリアフリー体験マップ作成

〈第2回〉（施設体験＋振り返り）

日程：2010年12月26日（日）10:00～17:00

場所：かごしま県民交流センター 介護実習室

集合後施設内のトイレで実地体験

内容：1. 事前ワークショップ

2. バリアフリートイレ体験

〈昼食〉

3. 座談会

参加費：¥500円（2日間通して）

講座＋ワークショップ実施前までの準備状況

第2回の施設内トイレ実習体験のトイレ状況調査（仮の写真収集）を、始める。（現時点ではかごしま県民交流センター・鹿児島市ボランティアセンターで実施予定だが、民間施設での実施も模索中〈イオン・オプシアミスミ・城山観光ホテル…など〉）

参加者を集う為のチラシ・ポスターの作成・配布を行う為の打合せを講師や参加スタッフと（遠方の為メールや電話にて…）協議中。

懸念材料

施設の空き状況と、講師中村氏との日程調

整で日程がクリスマスの12月25日（土）・26日（日）になってしまった事である。

対策として、早くからターゲットを絞って広報を始めようと画策中であるが、ターゲットへの広報手段に手間取っている。

今後の展開予定

4.の欄で（予定）として記載した2団体の協力参加により、日帰り旅行のルート作成にこの活動を活かして頂く（＝提携）ことも検討している。

この企画の最終ステージは、高齢者や障害者の方々が気楽に、安心・安全に外出が出来る環境を整える。その手助けをするMAP制作である。

鹿児島県福祉輸送連絡協議会は、県内の福祉輸送限定事業者の組合であり、安心安全な輸送を目的に活動している。

鹿児島県旅行業協会は、旅行業全般を担っている。ここ鹿児島は九州新幹線の全面開通に伴い、新しいツアーを企画している。その中で「福祉・介護付旅行」の提案を模索している。そこで、今回の企画で構築されていく「バリアフリー情報」と、企画したツアー案の実地検証に利用を望んでいる。

既に、ツアー案を検証・打診され、簡単な検証をさせて頂いている。

★まずは、この体験講座を成功させる事によって、各方面に信頼と信用を勝ち取り、今後の展開に繋げて行きたい。



8 京都子育てネットワーク

子育てサークルコンサルテーション事業

事業実施期間

2010年4月15日～2011年3月31日

事業実施場所

京都市子育て支援総合センターこどもみらい館／ひと・まち交流館 京都

共催、後援、協力団体

子育てサークル助け隊登録団体（20団体）／子育てグループ情報マップカード掲載協力団体（165団体）

動員対象者人数

①2010年7月「子育てグループ情報マップカード」（サークルに行こうキャンペーンカード）を8000枚作成し配布する

②2010年5月31日（月）・6月7日（月）「仲間づくりのファシリテーション術」研修開催 6名参加

③2010年6月29日（火）第1回「サークル運営なんでも相談窓口」1サークル3名参加

④2010年7月5日（月）第1回子育てサークル交流会「実践ハンドブックを体感してみよう！！～安心して楽しめるサークルづくり～」12サークル大人21名子ども12名参加

⑤2010年9月27日（月）第2回子育てサークル交流会「メンバー同士の仲が深まる親子あそび」10サークル大人21名子ども15名参加

①「子育てグループ情報マップカード」（サークルに行こうキャンペーンカード）については、165団体に情報を確認、また新規の団体の情報も収集、従来のHPも更新し、新たにカードを作成して、お母さんたちの手元に届

くように子育て支援センター・保健所等に配布した。今後は、10月・11月・12月とイベント時に配布予定。

②「仲間づくりのファシリテーション術」研修開催については、ファシリテーターとしてサークル活動を盛り上げて行きたいという意欲ある参加者が集まり、グループワーク・ロールプレイ等を通して、ファシリテーター術を実践・体験してもらうことが出来た。その後、それぞれの活動の中で、例えば、サークルリーダーとしてファシリテーション術を活かしてもらっている。

③「サークル運営なんでも相談窓口」については、新たにメンバーを増やしたいという相談を受けて、色々と話しを聞きながら、チラシの作成・サークル助け隊を利用しているイベントの企画の提案等を行い、何か取り組んでみようという、前向きな気持ちを持ってもらうことが出来た。

④と⑤の「子育てサークル交流会」については、サークルに参加しているお母さんたちが多数参加、まず、アイスブレイクゲームで打ち解けてもらい、④では、価値観ゲームを体験、お互い意見は違っても、その人なりの考え方があることに気づき、やはり、人として話し合うことの大切さ、相手を理解しようと

する姿勢を持つことの大切さを再確認し、安心して楽しめるサークル作りへの一歩となることが出来た。

⑤では、4グループに分かれて、[ドラえもん]のテーマ曲の振り付けをパートに分けて考えてもらい、曲に合わせた振り付けが完成。みんな踊って、達成感を味わうことができた。風船と新聞紙を使うゲームでは、みんなで風船を床に落とさないように協力しあいチームワークの大切さを実感、最後はバルーンを楽しんだ。グループワーク・ゲーム等の体験から、人と人とのつながりが深まることの楽しさを実感、各サークルに持ち帰り役立ててもらえることが出来た。今後は、11月・2月と実施予定。



9 わたしたちの夏委員会

子どもに伝えるものづくりフェア

事業実施期間

2010年8月7日（土）・8日（日）

事業実施場所

美作市東栗倉地区河川公園

共催、後援、協力団体

後援：美作市教育委員会・山陽新聞社・愛の村ing会

動員対象者人数

8月7日：約150名

8月8日：約100名

合計：約250名

地元の神社祭にあわせて、子供から大人まで「未来を担う子どもたちに、自分たちが暮らす地域やそこにかかわるものづくりに携わる人たちの活動を知り、一緒に体験することで地域に対する理解を深め、将来この地域の暮らしを背負って立つ気持ちを育てたい」という主旨に賛同してくれた地域内外のクラフト作家はじめものづくりに携わる仲間が集まってこの取り組みを始めて今年で第5回を迎えました。

今年はまちづくり市民財団のご協力を得ることができたので、これまでより規模を広げ、できるだけ多くの子どもたちにいっぱい体験をしてもらえるように、参加費をおさえた体験ブースを増やすように考えました。

体験ブース

- ・簡単木工イス作り（地元家具作家）
- ・篠笛作り・演奏指導（地元演奏家）
- ・金属加工実演（地元金属加工業者）
- ・木工玩具づくり（大阪玩具作家）
- ・陶芸教室（地元陶芸家）
- ・木工糸鋸教室（地元玩具作家）
- ・丸太切り〜こぼりづくり（地元林業家）
- ・料理教室（地元調理師）
- ・マイ箸づくり（兵庫：保育関係者）
- ・ヤマメのつかみ取り（地元養魚業者）
- ・建設重機操縦体験（地元建設業者）

その他

- ・ヒロシマ原爆写真展・ミニバザー（本部事業）
- ・飲食コーナー

以上の出展がありました。

過去4回の取組みでは例の無いほど、8月7日（土）・8日（日）両日も好天に恵まれ、合計延べ約250名の子ども連れの家族で賑わいました。

ひとつのブースでの体験が1時間から2時間を要する内容でしたが、子どもによっては三つのものづくり体験をした人もいました。幼児や低学年の子どもたちはお父さんやお母さんたちと、高学年の子どもたちはひとりで頑

張って取組んでいました。中には大人の方が一所懸命になっておられる姿が見られました。

普段見ることのできない電気溶接の実演は特殊な面をかぶって、さながら昼間の花火のような光を興味深そうに見ていました。

参加者は作業をする中で作り手である出展者という話し、ゆっくり交流することもできたようです。出展者の方も、ものづくりを通して子どもとの交流は始めてという人もいて、子どもと一緒に活動することの楽しさを知り、子どもの頑張る姿に驚きを感じていたようです。

日数のかかる陶芸も夏休みのうちにすべて届けることができました。

出展者だけでなくスタッフとして協力してくれた多くのメンバー（インドネシアからの留学生4名含む）ともつながれたことは子どもたちにとっても私たちにとっても本当にいい経験になりました。ほとんどの参加者に「これからも続けてね!」と声をかけられました。人口1400人の小さな山村の谷間に子どもたちの歓声がこだました2日間でした。この成果を来年に生かし、地域を元気にしていく取り組みの一翼となるよう日常の活動につなげていきたいと話合っています。



10 山の都ハニープロジェクト実行委員会

山の都ハニープロジェクト

事業実施期間

2010年4月1日～2011年3月31日

事業実施場所

山梨県甲府市および中巨摩郡昭和町

共催、後援、協力団体

昭和町商工会青年部、パルスシステム山梨、(社)甲府青年会議所

動員対象者人数

1. ハチミツ採取体験（3回）参加者合計 67名
2. ミツバチ管理（30回）参加者合計 46名
3. 花の苗（かいミント）配布 100苗、花の種配布 100袋（甲府市、甲斐市、昭和町にて）（2010年10月1日現在）
4. 各団体との打合せ 商工会青年部、パルスシステム山梨、社団法人甲府青年会議所山梨覚醒委員会
5. 実行委員会の開催 10回
6. (社)甲府青年会議所主催の「郷育フォーラム」での講演 50名動員予定
10月27日（動員は甲府JCが行う）
7. 山の都ハニープロジェクト実行委員会主催の講演会の実施 100名動員予定

1. 巣箱の設置・管理：毎週1回 各巣箱の管理を委員会メンバーとその家族が中心になって行っております。

（甲府市丸の内ビル屋上：1箱、朝日町メンバー企業敷地内：2箱 昭和町商工会ビル：1箱、昭和町メンバー企業：5箱 計9箱）

2. 養蜂研修：委員会メンバーを中心に山梨

県北杜市の養蜂家へ研修を3回行いました。

3. 他団体との協働①：昭和町商工会青年部と町花（乙女椿）とハチミツ、蜜ろうを使った商品を開発中、現在、乙女椿&ハニー石鹸（仮称）の試作品を作っていたいております。完成後は、商工会主催のイベントで、乙女椿と新商品のPRをしていく予定です。

4. 他団体との協働②：パルスシステム山梨（生協）にハチミツ採取体験に参加していただき、2011年春から協働で甲府市にある菜の花畑で行う事業の打合せを行っております。現在、ハチミツ採取体験と菜の花をバイオディーゼル油に変えるなど環境問題を絡めた事業の協議中です。

5. 花の苗配布：山梨オリジナルの花である「かいミント」を昭和町商工会、甲府市中心部の住民、企業に配布しました。また昨年配布した花を調査し、手入れを行ないました。

6. ハチミツ採取体験：甲府青年会議所、商工会などを通じて参加者を募りました。8月に開催しました。ミツバチと地域の生態系、農業問題、環境問題を説明しながら、採蜜体験、

蜜ろう作り、キャンドル作り、試食会を行いました。参加者には花の苗を提供いたしました。

7. ミツバチ管理（越冬準備）：ミツバチの越冬、スズメ蜂対策に備えて巣箱を工夫し、改良を重ねております。また山梨県畜産課からの検査と管理に対する指導を受けました。

8. 講演会開催に向けて：講師には養蜂家の藤原誠太氏（藤原養蜂所専務）を予定しております。「環境問題、農業問題、はちづくとまちづくり」をテーマに講演予定。また花の種を配布する。場所：甲斐市総合文化会館。（11月中旬予定）

9. 「郷育フォーラム」への講演：(社)甲府青年会議所の継続事業「郷育フォーラム」にて、「はちづくとまちづくり」をテーマに講演を行う予定です。また花の種を配布する。場所：甲府市総合市民会館（10月27日開催）

10. 昨年に引き続き採取したハチミツを地元の洋菓子店に提供し、新しいケーキを商品開発する予定です。（11月予定）



11 特定非営利活動法人

棚田LOVER's

棚田保全、有機農業推進のために都市と農村をつなぎ、農や食に関心のある人を応援するまちづくり農楽カフェ事業

事業実施期間

2010年4月1日～2010年3月31日

事業実施場所

神戸市東灘区本山北町2-6-24 1Fミドリカフェ
兵庫県香美町小代区貫田、神戸市の農園、はたんぼ

共催、後援、協力団体

ミドリカフェ、棚田LOVER's SEED、貫田自治会、二階町商店街振興組合、小代小学校、曾左小学校、福岡東中学校、曾左地区連合自治会、オレンジリボン推進プロジェクト、楽農舎、白井ファーム、八木保育園、牛尾農場、乃大農園、社団法人こども環境フォーラム、棚田むすびの会、棚田穀店、はたんぼ

動員対象者人数

月2回実施し各回15名程度を対象

神戸市東灘区のみドリカフェという都市住民が集う場で、学者、生活者、生産者で実績のある方を講師として招き「農楽カフェ～オーガニックな人と人、人と自然がつながる場」という意見交換・交流企画を行っている。内容は、単なる講義形式ではなく、事前に講師から議題をいただき、参加者から意見を募集、都市的地域内の農業や農地が持つ多面的機能についての理解を促進する。手法としては以下の2つを実施する。

- ①毎月基本第1木曜日、第3木曜日（9月からは基本第1水曜日）夜19時～21時までみドリカフェにおいて、「農」や「食」の分野で著名な講師を招いての意見交換・交流会「農楽カフェ」を実施する。
- ②9月から毎月第2日曜日、「農楽カフェ」を踏ま

えた上で実際に、講師や多面的機能の普及啓発に取り組む先進的な都市のフィールド（農場、農園等）を訪れ、意見交換・交流会を実施する。また、成果をHPや報告集としてまとめ社会に発信し、さらに、商店街の活性化イベント、フォーラムなどで報告資料配布や展示を行う。

【今までの活動・ゲスト】

企画①：基本第1木曜

場所：みドリカフェ、はたんぼ

4月1日（木）

有機農業ってすげえ～～オーガニックな人と人、農・食・環境がつながっていく～

尾崎零さん（産消循環自給農場〈べじたぶる・は一つ〉代表）

間晴苗さん（べじたぶるふぁいん晴苗農園）

5月20日

ツナガリで育まれる有機野菜～農園とカフェの美味しい関係～

右田太郎（たつの市：右田農園、有機農法生産者）、内田圭介さん（みドリカフェ）

6月17日（木）

自分が楽しめる農とは～自然農法への挑戦～中原千代（西宮市：千代ちゃん農園、自然農法生産者）

7月1日（木）

森林農法によるコーヒー作り～さあおいしいコーヒーを飲みましょう～

ゲスト：日下部伸行さん（京都市：株式会社ウインドファーム）

7月15日（木）

たまねぎから作るオニオンキャラメリゼとは？～農と福祉をつなぐ障害者の自立支援へ！～

ゲスト：福井佑美子さん（株式会社プラスリジョン）



8月5日（木）有機野菜と美味しい醬油で愛のこもった料理～人と人、人と自然をつなぐはたんぼにさあ出かけよう～

ゲスト：井上陽平さん（井上農園）、井上絢子さん（今井醬油）

シェフ：越智良典さん（はたんぼ）

9月8日（水）

農楽カフェの実践と魅力～カフェから時代は創られる～

ゲスト：飯田美樹（カフェ文化研究所）

10月6日（水）

有機農業実践者による有機野菜の栽培法とシニア野菜ソムリエによる料理法～ほんものの技術と味と伝え、人と人をつなごう～

ゲスト

渋谷富喜男さん（有機農家・元兵庫県有機農業研究会代表）

高橋昇さん（全国シニア野菜ソムリエの会代表幹事）

企画②：基本第2日曜

場所：現地の農園

9月12日（日）

フィールド農楽カフェ inくすのきエコ農園さあ現場へ出かけよう

10月10日（日）

フィールド農楽カフェ in 渋谷さんの畑と高橋さんの百菜

企画①を行うことで、神戸市という大都市にいなから、農業や食に関する臨場感ある話を聞き、参加者同士の意見交換を通じて、都市的地域内の農業や農地が持つ多面的機能について理解する効果がある、それを踏まえた上で、企画②を行うことにより、話を聞くだけでなく、実際に現地を知り、各自の理解を各々の活動において実践に移すきっかけづくりとなっている。

12 特定非営利活動法人

鈴鹿循環共生パーティー

鈴鹿「まちはたけ」公園へ行こう！ はたけづくりは街づくり

事業実施期間

2010年6月15日～2011年3月31日

事業実施場所

鈴鹿市阿古首町

共催、後援、協力団体

【共催】 NPO法人循環共生社会システム研究所、一般社団法人鈴鹿カルチャーステーション

【協力団体】 鈴鹿市身土不仁の会、鈴鹿市農林漁業を考える議員の会、NPO法人三重県スローライフ協会（株）ハンター、（株）アズワフファーム、（株）伊勢の森工務店、（株）おふくろさん弁当、滋賀県健康生きがい開発財団、財団法人健康生きがい開発財団

動員対象者人数

100人～150人程度

街のはたけ公園整備中

F1レースで世界的に有名な鈴鹿市が農業生産高でも三重県第一位とはあまり知られていませんが、鈴鹿山系からの豊富な水と広い平地がその特徴です。持続可能性の実現には農を軸にした小さい循環が必要なこと、グローバル経済の動きに振り回されない安定した地域経済圏の形成には地産地消、そして暮らしの安定には人と人のつながりが深まるコミュニティ作りが必須条件です。市の中心部にセントラルグリーンと呼ばれる水田地帯が広がる地勢は、以上を実現するのにまさに理想的ともいえる条件です。こうした私たちの趣旨と計画に地元スーパーさんが賛同されて5000

坪の土地を提供して下さいました。スーパーでは過去20年ここで花苗を育て市内の施設や学校に花を贈ってこられたましたが、担当者の高齢化など維持管理が困難となり、理想的にも公共に資する点と作業を若い層で受け持つという実働性を評価して下さった結果、私たちに無償貸与になったものです。

整備は、まず長年の化成肥料と農業投与で傷んだ土壌を健康にするところからです。6月末に土の状態を見て、出来る所から畑にしていけるために、鈴鹿市内外からの参加者が毎週末サツマイモの苗植えを行いました。

これまで主に花と花木、果樹が植わっていたのを最近ではほとんど放置状態となっていたので、7月～8月にかけては酷暑の中で若い人たちが、桜並木や柿園を残して伐採し、重機で根を取り除いて畑用に開墾を進めました。また、夏にハスの花が咲きレンコン収穫も楽しむよう描いて、東南の角地に池を掘って水を引き周囲に雪柳を植えました。

9月に入ってからからは休日に鈴鹿市内の子どもたち向け企画として、南面の畑に小松菜の種まき、また名古屋市内や京都市内の学生有志で草抜きを行いました。10月にはその小松菜が収穫できるようになり、サツマイモの収穫も合わせて企画に使っています。子供向け教



育事業に加えて10月16日から来春にかけて開催する企業退職者向けの生きがいづくり講座や地域再生コーディネーター養成講座でも実習地として使います。

日中の畑の管理作業は主に（株）アズワフファームの若い人たちが受け持っています。小松菜は協力関係にあるお弁当屋さんで使ってもらい、若い人の収入の一助にしてもらっています。

課題としては状態が思った以上に悪く、しばらく土作りや環境整備に時間がかかること、日陰が少ない点です。土づくりのために、近場の里山から腐葉土を入手し、今後さらに継続できるよう関係者と共に近隣や市役所に働きかけています。その中で思いがけない新しいつながりがまた出来つつあり、このネットワークは将来的には目に見えない財産になると思われます。もし地元の人たちの協力で適切な里山が見つければ、里山と街のはたけをつなぐ「もの」と「人」の小さな循環の輪がつかれるよう、そのきっかけにしたいと思います。

今後の体験企画としては、土づくりと並行して10月下旬にかけてサツマイモ収穫と小松菜収穫の続き、その後は冬野菜の種まき、土づくり講習会、レンコン収穫、わらじづくり、モチツキ大会など準備しているところです。

2007～2009年度助成金事業一覧

2009年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表			合計助成金額 5,664,960円		
団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目	
1 社団法人 鹿児島青年会議所	日食祭（鹿児島コスモフェスタ 2009）	200,000	鹿児島県	B 2	
2 特定非営利活動法人 コドモ・ワカモノまち ing	移動式子ども基地による「まちの縁結び」	500,000	東京都	A	
3 特定非営利活動法人 弘前こどもコミュニティ・びーぶる	『子どもを真ん中においた日』市民力による中心商店街賑わいづくり事業	500,000	青森県	A	
4 大枝アートプロジェクト実行委員会	大枝 05 みどりの停留所～ニシヤマアートブックプロジェクト～	250,000	京都府	B 5	
5 チームごじゃっぺ	地域の文化遺産を活用した「つくば」と「筑波」の地域間・世代間交流プロジェクト	300,000	茨城県	A	
6 はるころ企画	つなげて発見！田舎の恵み「はるころマーケット」	300,000	北海道	A	
7 つく net。	不登校・ひきこもり、発達障害者の人達による保護犬のパートナー・ドッグ育成事業	500,000	宮城県	A	
8 特定非営利活動法人 あなたの街の「三河や」さん	「笑顔があふれる街づくり」	300,000	宮城県	B 6	
9 社団法人 由利本荘青年会議所	「由利本荘にかほ 10 万人セールス大作戦」	500,000	秋田県	A	
10 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ 東久留米地域センター事業所	ベッタウンからホームタウンへ「畑作り」がつなぐ「まちづくり」の輪	440,000	東京都	B 4	
11 特定非営利活動法人 よこはま里山研究所 NORA	街のなかにある土間 「はまどま」がつなぐ地域コミュニティ	500,000	神奈川県	A	
12 特定非営利活動法人 かごしま GIFT	2009 皆既日食記念・世界天文年時の芸術祭	200,000	鹿児島県	B 6	
13 天羽英雄	中心市街地勝手に応援志隊	250,000	徳島県	A	
14 北はりま地域づくり応援団	2009 どんぐりっこあつまれ どんぐりっ子の森 事業	250,000	兵庫県	B 4	

2008年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表			合計助成金額 5,664,960円		
団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目	
1 特定非営利活動法人 楽笑	地元の特性を生かした街づくり	500,000	愛知県	1.2.3.4.5.6	
2 紫波中央駅前コミュニティ・プラザの会	「なんでも屋・おせっかい」を拠点にした「近所づきあい」の復活	500,000	岩手県	1.2.4.	
3 特定非営利活動法人 西淀川子どもセンター	「ぼびんず」（子ども相談室）と「よっしゃ」（子ども地域サポーター）ではぐくむ、子どもの『安心・自信・自由』	200,000	大阪府	1.2.3.4.5.6	
4 ナキウサギの鳴く里づくりプロジェクト協議会	富良野地域における「ナキウサギを核とする自然との共生」ガイドライン作成をまちづくりへ活かす	470,000	北海道	1.2.3.6	
5 特定非営利活動法人 CC 愛編集室	石のバンク	500,000	兵庫県	1.3.4	
6 まちの家赤坂宿 準備室	週末健康カフェ	200,000	岐阜県	2	
7 盲導犬関連ボランティア団体「フリーラン」	音と写真で楽しむ、まちのイメージマップ ー（副題）あなたも行ってみませんか？	94,960	神奈川県	1.2	
8 尾道空き家再生プロジェクト	子育てママのいきいきサロンづくり	500,000	広島県	5	
9 特定非営利活動法人 グリーンスポーツ奈良	公園・広場に芝生（ティフトン）を皆で植えて、おもいっきり遊び運動する場をつくろう	500,000	奈良県	2.5	
10 下京こころのふれあい交流サロンふう実行委員会	ひとりぼっちにならない、させないまちづくり～地域のお茶の間サロンからの発信～	500,000	京都府	1	
11 路地裏ネットワーク	地域をつなぐホテル復活計画	450,000	岩手県	2.4	
12 どうぶつ福祉の会 アニマルサポート・ノア	地域の動物愛護に関する意識向上を補助する事業	350,000	茨城県	1.4.5	
13 大聖寺 家守クラブ	加賀大聖寺「第2回やもり市 やもりもんのエコなくらしかた」プロジェクト	500,000	石川県	1.2.3.6	
14 コミュニティスペース運営委員会	大学生による地域の活性化 地域の居場所事業 コミュニティスペース PECO	400,000	大阪府	2.3.4.5.6	

2007年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表		合計助成金額 6,580,000円		
団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目
1 天川☆星座遺産プロジェクト2007実行委員	天川☆星座遺産プロジェクト 2007 -星々で紡ぐ記憶の遺産-	380,000	東京都	1.2.3
2 特定非営利活動法人 北海道ツーリズム協会	異業種交流による「暮らし感動プロジェクト・田舎暮らしのススメ」	300,000	北海道	1
3 今立 古民家・匠・ロングステイプロジェクト 実行委員会 (いまだて遊作塾)	地域のぶらっとほーむ『遊作の里づくり』	500,000	福井県	1
4 特定非営利活動法人 サン・はぎわら	“あったか広場” 運営事業	400,000	岐阜県	1.2.3.4.5.6
5 福岡の朝・魅力向上計画実行委員会	「福岡の朝・魅力向上計画」朝カフェ3	300,000	福岡県	1.2.3.4.5.6
6 津七たまつり実行委員会	津七たまつり実行委員会 始動プロジェクト	150,000	三重県	2
7 八幡酒蔵工房	社会循環型『八幡酒蔵工房』開設	500,000	滋賀県	1.2.3.4
8 愛媛県神道青年会	愛媛の伝統文化 IN 道後	300,000	愛媛県	2.3
9 駄菓子屋「くにちゃん」	子どもの居場所・多世代との交流	300,000	東京都	5
10 環境プロジェクト三保三隅百姓会	「土蔵屋」創りでまちづくり事業	500,000	島根県	1.2.3.4.5.6
11 特定非営利活動法人 町田楽友協会	バリアフリー オーケストラのためのセラピー パーカッション等の購入	300,000	東京都	3
12 U nited Children	Sunshine Festival 2007 サンシャイン フェスティバル 2007	300,000	静岡県	2.3.6
13 ピープルズシアター・リコロコ	みちばたからまちづくりプロジェクト「みちばた劇まつり」	500,000	埼玉県	1.2.6
14 特定非営利活動法人 俳句甲子園実行委員会	第10回 俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会	150,000	愛媛県	2.3
15 鶴沼の緑と景観を守る会	鶴沼(藤沢市)の緑と景観を守り、歴史的建造物などの文化財を大切にしたい住民参加のまちづくり	300,000	神奈川県	1.3.4
16 社団法人 天童青年会議所	第28回全国中学生選抜将棋選手権大会 第9回女子の部	100,000	山形県	1.6
17 社団法人 山梨青年会議所	文化財・大井俣八幡神社を使った山梨市のまちづくり	100,000	山梨県	1
18 社団法人 豊田青年会議所	エコキッズ事業	100,000	愛知県	3.6
19 (社) 静岡青年会議所	「しずおか未来学園」親子の絆・次代創造～過去・現在そして未来へ～	100,000	静岡県	5
20 社団法人 高知青年会議所	RUN FOR ALL 2 「ノーマライゼーション社会へ」	100,000	高知県	1.2.3.4.5.6
21 サザンビーチフェスタ実行委員会	茅ヶ崎市制60周年記念事業 サザンビーチフェスタ'07	100,000	神奈川県	1
22 社団法人 西条青年会議所	2007夏休みチャレンジわんぱく西条プロジェクト「夏プロ」	100,000	愛媛県	1.2.3.4.5.6
23 ウォークリーチーム	ウォークリー	100,000	愛媛県	1
24 社団法人 岩国青年会議所	岩国市民参加型総合音楽祭【音楽の祭典 WAI!WAI!WAI!】	200,000	山口県	1.3.6
25 社団法人 久慈青年会議所	いわて久慈のたからものえほん製作事業(第1期)	200,000	岩手県	2.5.6
26 社団法人 寒河江青年会議所	40周年記念事業 2007年度夏休みみ少年少女 心のあかり ～六十里越街道、出羽三山を通じて～	200,000	山形県	5

公益社団法人
日本青年会議所

地域活性化たから市

事業実施期間

2010年5月28日～2010年5月30日

28日(金)10:00～18:00

29日(土)10:00～18:00

30日(日)10:00～17:00

事業実施場所

千葉県千葉市美浜区中瀬2-1 幕張メッセ (9・10ホール)

共催、後援、協力団体

第16回日本観光博覧祭「旅フェア2010」内において開催

主催：旅フェア実行委員会(社団法人日本観光協会)

後援：国土交通省、総務省、観光庁、千葉県、千葉市

協賛：公益社団法人日本青年会議所

動員対象者人数

来場者数120,832人 ※主催者発表数

28日(金)28,972人

29日(土)47,716人

30日(日)44,144人

本年、財団法人まちづくり市民財団と行ないました「まちづくり共同研究事業」では、私達(公益社団法人日本青年会議所「地域のたから」創造会議)において『地域活性化たから市』を実施開催させて頂きました。この事業は全国各地の団体(自治体、企業、各種団体)に「地域のたから」をそれぞれ出展頂き、来場頂いた方々にそれぞれの地域の魅力や潜在能力を肌で体感してもらうことで、出展者との会話対話を通し、その地域の風土や人情味を肌で感じて頂くというものです。私達の取組には、社会関係資本の強化による輝く地域の調査研究が掲げられており、その具体的なモデルケースを全国から集結したものが『地域活性化たから市』であります。

近年における財政構造改革や地方分権の名の下に、効率化だけを目的に行なわれた地域再編により、地方過疎や都市部への一極集中に拍車がかかり、豊かな地域の風土や人々の



生産能力が失われ、地域経済の衰退や活力低下を招いております。自主自立した地域社会の再生には「地域」の活性化が求められており、まずは信頼や規範から成り立つ人間関係のつながり、即ち「社会関係資本」を活用し、その強化によって磨かれた地域資産である「地域のたから」の創出が必要と考え、本事業を実施するに至りました。社会関係資本というものとはあらゆる地域に存在しているにも関わらず、如何にして活用するのかという点において明快なマニュアルが無いものであり、そのような中で今回は、その活用において秀でている団体をブースとして招致しました。

この度の開催に係り、スケールメリットを活かし、より多くの人々に「地域のたから」創出の重要性を伝える為に、社団法人日本観光協会が行ないました～第16回日本観光博覧祭「旅フェア2010」～と連携しての開催と致しました。食や暮らしに強く目を向け、地域活性化への想いを持った出展者において、社会関係資本の強化によって創出された「地域のたから」を持ち寄って頂き、自身のまちの魅力を来場者に広く発信することで、それぞれの地域が更に活性化の一助となる事業構築



を目指しました。

また社会関係資本によって磨かれた「地域のたから」に実際に触れ、その創出された経緯や手法を学ぶことで、来場者が大きなヒントを自身の地域に持ち帰り、新しい「地域のたから」を生み出していただく契機とすることも一環として目指しました。社会関係資本の重要性や、地域活性化の実現策を肌で感じて頂くことは、自身のまちの可能性創出の気づきや学びを得る契機となった筈です。結果として12万人超の動員があった事業として、社会関係資本というキーワードを軸に大きな発信をすることができました。同時に「まちづくり共同研究事業」として、このような営利目的に頼らない出展については、利潤追求型の昨今のイベント形式に大きな風穴を開けたものと考えます。

本事業において来場の方々はもとより、出展先の皆様にも交流の輪に交わって頂くことで、互いが互いを磨き上げるという「地域のたから」創造の原点を大きく描くことができました。結びになりますが、ご支援ご協力賜りました皆様方に御礼を申し上げて御報告とさせていただきます。ありがとうございました。



2010年度 社団法人日本青年会議所との共同研究事業について

担当理事 高島 優

昨年まで全国各地の青年会議所を対象にして、それぞれの地域の特性を活かした事業を題材に共同研究を行ってまいりました。本年度は、趣を新たに、社団法人日本青年会議所が掲げるまちづくりのテーマを切り口に共同研究を行っています。

キーワードは「社会関係資本」。地域独特の「人と人のつながり」を指します。

地域の資産を活用した地域経済の活性化事例の研究から背景・メカニズム・進行スケジュールなどを深掘し、全国でまちづくりへの援助

としていきます。

前段として活性化事例を掘り起こすことを目的に社団法人日本青年会議所地域のデザイン創造グループが中心となって幕張メッセで開催された「旅フェア2010」の中で「地域活性化たから市」を開催しています。

地域特産のB級ぐるめ・ゆるきゃらなどまちづくりの流行が目立ち、「社会関係資本」へのスポットを当てるには至りませんでした。活性化事例の発掘はできたと考えています。今後活性化事例の取材活動からの研究成果を発表していくこととなります。

緊急災害援助事業

社団法人
小林青年会議所

口蹄疫経済復興事業

～夢ある宮崎の明日を描いて 私たちはあの日を忘れない～

事業実施期間

2010年10月23日(土)～24日(日)

事業実施場所

小林青果市場

共催、後援、協力団体

後援：NPO法人こばやしハートム、小林市SAP会議、

小林市観光協会、小林商工会議所

協力：私立小林幼稚園

動員対象者人数

参加者：268名(大人201名、子ども57名)

本年度社団法人穂の国青年会議所では「地
4月20日に1例目の口蹄疫が確認されてから、宮崎県内各地に口蹄疫が広がり、7月22日現在では、宮崎県全体では290を超える農場で、感染疑いやワクチン接種により約29万もの家畜が殺処分の対象となりました。
これにより宮崎県の基幹産業である畜産業界に深刻な打撃を与えたばかりにとどまらず、その波は全産業に及び売上高の急激な減少、雇用者の退職勧告、県外客の来県見送り、さらにはスポーツ大会や各種会合やイベント等が中止又は延期されたことで、市民生活にも大きな影響が広がる事態になりました。当地、小林市でもその影響は計り知れないものがあり、疲弊しきつたふるさと宮崎及びこばやしを復興すべくまた、宮崎県民を始め全国の宮崎県及び小林市に所縁のある方々にお声かけさせていただき、参加者全員で今回の口蹄疫に対するの気持ちの共有を計り、一丸となり県内でも有数な畜産地帯である県西部地区の中心地小林市、さらには宮崎県の今後の復興及び長期的活性化につなげたいと非常事態宣言が解除された今、この落ち込んだ経済と沈んだ雰囲気早期に吹き飛ばす必要性を感じこのイベントを企画するに至りました。ご参加いただきました方々により10月23日に歓迎レセプションを行い、第1部口蹄疫バイバイフォーラム、第2部大懇親会の2部構成で行いました。フォーラムではコーディネータに小林商工会議所青年部会長、パネラーに小林市副市長、JAこばやし代表理事組合長、えびの市市長、九州地区宮崎ブロック協議会会長をお招

きし開催いたしました。このフォーラムにおいて、今回の口蹄疫に対するの各分野からのご意見、今後の課題や県民で取り組むべき活動等の提言を戴き、参加者全員の口蹄疫に対するの思いを共有し、今後の一丸となった復興の機運を高めるきっかけと致しました。さらには、フォーラム終了時に口蹄疫復興宣言文を朗読し、さらに機運を高め復興を誓い合いました。第2部は、ふるさとというキーワードを前面に出した大懇親会と致しまして、北きりしま田舎物語協議会様より郷土料理、小林商工会議所及び西の原牧場様より西諸牛、コダマ様より鶏、豚肉、地元焼酎等を購入及び協賛戴き参加者の皆様へおもてなしをさせていただきました。また、口蹄疫復興ソングを歌っておられる宮崎県出身の浜崎奈津子氏や小林音頭や太鼓の披露を小林幼稚園様の子ども達や保護者の皆様に行っていただき、子どもからお年寄りまで全ての参加者の皆様の意思統一を図る取り組みを行いました。また、大抽選会では地場の特産品を準備して、宮崎のよさをPRいたしました。特に、懇親会終了時に参加者全員で輪になり小林音頭を踊り締めくくった際には本当に一丸となった雰囲気がありました。懇親会終了後、小林姓の皆様と様々な意見交換を行い宮崎を第二の故郷と考え、PRすることにより少しでもご協力できるよ呼びかけますとの意見も頂きました。参加者の皆様には『宮崎よかとこPR宣伝隊員証』及び記念タオルをお渡しし、この度の口蹄疫被害を忘れることなく、まずは身の回りの方々へ宮崎のすばらしさをPRしていただき、ご自身にも郷土愛を深めていただくための工夫を致しました。また、参加者の顔写真や事業の写真を組み合わせフォトアートを作成し、小林市内の公共機関や県内の主要機関へ掲示させていただき、今回の口蹄疫での頑張ろうという気概が薄れていかないような取り組みも行って行こうと考えております。二日目は、小林姓の方々と市内観光をする予定でしたが、



あいにくの大雨により大幅な内容変更で早く帰路につかれないとの要望からお見送りのみ行い、後片付けに専念いたしました。今後、口蹄疫の被害からの復興には数年かかると考えられますが、全国の皆様からの温かいご支援を忘れず、皆が一丸となり助け合い、励ましあいながら復興を一日でも早く遂げられる時を目指し、これからも様々な事業を行ってまいりたいと存じます。



災害支援事業報告

財団法人まちづくり市民財団 評議員 寺川 彰

4月20日宮崎県で最初の口蹄疫発症が確認され、8月27日終息宣言発表までの約4ヶ月間、県内各地に広がった口蹄疫は、290を超える農場で約20万頭もの家畜が殺処分の対象となり、宮崎の畜産業界に深刻な打撃を与えたのみならず2次3次被害とともに、宮崎経済に大きな影響を与え、県民に暗い影を落とす結果となりました。

終息宣言後、私ども財団法人まちづくり市民財団は、公益社団法人日本青年会議所宮崎ブロック協議会に対し災害支援事業を促したところ、社団法人小林青年会議所坂本理事長より「災害復興事業」を実施したい旨のエントリーがあり、この度の事業実施に至っております。

口蹄疫発症をしていない小林市、しかしながら2次3次被害と大き

な影響を受けており、だからこそ県内全域に対する復興の思いは強く、県内外に対し「宮崎復興は県民一人ひとりが取り組むべき活動である」を下に策定された「口蹄疫復興宣言文」により、発信した社団法人小林青年会議所を核に、市民同士が復興を誓い合う、「願い」のこもった事業開催でありました。

復興はかなりの時間を要するものと思いますが、今後も社団法人小林青年会議所が中心となり、小林市、ひいては宮崎県全体の復興に大きく寄与できる事業を開催いただきますよう期待しております。

最後になりますが、被害にあわれた皆様方はじめ宮崎県の、一日も早い復興を祈念し、災害支援事業の報告とさせていただきます。

まち towns!

Vol. 20

財団法人 まちづくり市民財団

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 日本青年会議所会館内

TEL : 03-3234-2607

FAX : 03-3234-5770



財団法人 まちづくり市民財団

編集スタッフ

2010年度公益社団法人日本青年会議所
「地域のたから」創造会議 メンバー一同